



大阪医科薬科大学病院  
アレルギーセンター

Takatsuki, Osaka Since 2021

# ANNUAL REPORT

年次報告書

## 2024

大阪府高槻市大学町2-7

Tel : 072-683-1221

e-mail : allergy\_center@ompu.ac.jp

[https://hospital.ompu.ac.jp/departments/allergic\\_disease\\_center/](https://hospital.ompu.ac.jp/departments/allergic_disease_center/)

(大阪府アレルギー疾患医療連携協力病院)



# アレルギーセンター Annual report 2024年版作成にあたって

2021年11月に、大阪医科薬科大学病院にアレルギーセンターが発足し、3年ほど経過いたしました。

地域におけるアレルギー診療の均てん化の一助となれるように努力をしてみましたが、まだまだ行うべき課題は山積している状態です。

アレルギーセンター活動のアウトカムを院内、院外で検証し、さらなる地域医療への貢献を目指していきたいと考えています。

アレルギー総合診の充実（多診療科、多職種での診療）を次年度の中心課題としていきたいと思えます。

そして、アレルギー総合診で種々の精査をした結果を必ず紹介元の先生にお返すこと、これが何よりも大切だと考えています。

北摂三島地区のアレルギー診療のさらなる充実を目標とし

私たちの街が、『アレルギー患者さんにやさしい街』と呼ばれる様に努力を継続してまいります。



2025年3月31日  
大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター長 寺田 哲也

## 目次

Pg. 3	センター運営委員一覧
Pg. 4	ポスター作製報告
Pg. 5	受診方法に関して
Pg. 6	診療担当表
Pg. 7	研究助成 獲得状況
Pg. 9	CAI資格取得者報告
Pg. 10	CAI活動報告
Pg. 11	研修会開催報告
Pg. 16	研修会開催予定（2025年）
Pg. 17	研究発表報告
Pg. 18	論文業績報告
Pg. 20	アレルギーセンター認知度上昇戦略
Pg. 21	臨床指標
Pg. 22	書籍案内

# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター センター運営委員一覧

所属	職種	役職	氏名
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	医師	センター長	寺田 哲也
皮膚科	医師	副センター長	福永 淳
呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科	医師	副センター長	中村 敬彦
呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科	医師		池田 宗一郎
眼科	医師		田尻 健介
眼科	医師		向井 規子
皮膚科	医師		金田 一真
小児科	医師		田中 智子
小児科	医師		岡本 奈美※
小児科	医師		大関 ゆか※
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	医師		菊岡 祐介※
歯科口腔外科	歯科医師		藤原 久美子
65病棟	看護師		水島 道代
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 外来	看護師		山口 睦美
77病棟	看護師		生地 知美
皮膚科 外来	看護師		河村 佐知
中央検査部	臨床検査技師		麻野 秀一
栄養課	管理栄養士		尾籠 賢
薬剤課	薬剤師		濱田 武
医事課	事務		近都 貴志
庶務課	事務		森迫 宏幸
患者サービス課	事務		古玉 秋生
広域医療連携センター	事務		高田 直紀
医療連携室	事務		益倉 久実

2024年12月31日現在  
※ 非常勤

# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター ポスター作製報告

アレルギーセンターおよび総合診の広報活動の一環として、ポスターを作成し、院内に掲示しております。

## Q アレルギーセンターとは？

多臓器に渡る重症アレルギー患者さん、または原因不明のアレルギー患者さんをアレルギーセンターの総合診で診療させていただきます。アレルギーの原因はさまざま、受診する診療科もさまざまです。ばらばらに各診療科を受診するのではなく、関連する診療科や職種が連携して、総合的に診療とアレルギー管理をしていくことが大切です。患者さんのアレルギーをトータルマネージメントする、それが大阪医科薬科大学病院アレルギーセンターです。

# アレルギーを トータルマネージメント で 総合診

## Q 総合診をどうやって受診するの？

- かかりつけ医に「大阪医科薬科大学病院アレルギーセンター」宛の紹介状を書いてもらう。
- 本院通院中の患者さんは、受診している診療科で、医師または看護師に「アレルギーセンターを受診したい」とご相談ください。

<p style="background-color: #fff9c4; padding: 2px;">主な症状の診療科を受診</p>	<p>▶ まずは、1番お困りの症状の診療科を受診してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花粉症、副鼻腔炎⇒耳鼻咽喉科/寺田哲也 医師（水曜日午前）</li> <li>・食物アレルギー（成人）、アトピー性皮膚炎⇒皮膚科/福永淳 医師（金曜日午前）</li> <li>・喘息⇒呼吸器内科/中村敬彦 医師（金曜日午後）</li> <li>・小児アレルギー⇒小児科/大関ゆか 医師（火曜日午前）</li> <li>・アレルギー性眼疾患⇒眼科/田尻健介 医師（水曜日午前）</li> </ul> <p style="font-size: x-small;">※受診診療科がわからない場合は耳鼻咽喉科外来にお問い合わせください。</p>
<p style="background-color: #fff9c4; padding: 2px;">総合診（水曜日午後）を計画</p>	<p>▶ その後総合診（水曜日午後）での診察を予定させていただきます。</p>

**大阪医科薬科大学病院  
アレルギーセンター**  
Takatsuki, Osaka Since 2021

詳細はこちら

# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 受診方法に関して

当センターでは、多臓器/多領域にわたる疾患および重症例のアレルギー疾患に対して、診療科横断的検査および治療を集約し対応しております。2021年11月のセンター開設以降、患者さんがスムーズに受診でき、適切かつ迅速に診療を提供できるシステム作りを行っております。当センター宛にかかりつけ医からのFAX紹介申込書を頂くために、当センター ホームページ内で申込み方法の案内も掲載しております。

- ① 希望医師の欄に「アレルギーセンター」と記入
- ② 診療科名の欄に5科の中で主となる症状の診療科に「○」
- ③ 予約情報、患者さま情報、貴医療機関情報などの  
その他、必要事項を記入
- ④ 診療情報提供書と共にFAX送信

大阪医科薬科大学病院 FAX紹介申込書

診療科名の欄に  
**□の中で主となる症状の診療科**  
に「○」

希望医師の欄に  
**アレルギーセンター**と記入

希望医師 **アレルギーセンター** 医師 医師同連 辻 清 無

第1希望 令和 年 月 日 ( )

第2希望 令和 年 月 日 ( )

第3希望 令和 年 月 日 ( )

不都合な日 ( )

※セカンドオピニオンは専用申込書(ホームページよりダウンロード)にてお申込みください。

フリガナ 氏名 性別 年齢 大坂医大受診歴 有・無

生年月日 大・中・小・令 年 月 日 生 ( )

住所

電話番号 (自宅) (携帯)

A D L □独立 □車いす □座位(車椅子) □歩行補助具

来院時の状況 □外来患者 → 貴院で待機中ですか はい・いいえ  
□入院患者 → □退院後受診希望 → 予定退院日 ( )  
□入院中の受診希望 → 来院方法 ( )

保険情報 ※下記に記入していただくか、保険証等のコピーをFAXしてください。

保険者番号 公費負担番号

配付・贈品 公費負担番号

続病 本人・家族 公費負担割合 1割・2割・3割

該当項目に  
□生保 □労災 □第三者行為 □交通肇致  
※第三者行為・交通肇致の一点請求は行っていません。

医療機関名 住所 電話番号 FAX番号

担当科・医師名 科 先生

取次部署・担当名

以下当該記入欄

初	作成者	確認者
再		

診療科名

<input type="checkbox"/>	糖尿病内科
<input type="checkbox"/>	内分泌内科
<input type="checkbox"/>	脳神経内科
<input checked="" type="checkbox"/>	呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科
<input type="checkbox"/>	リウマチ膠原病内科
<input type="checkbox"/>	消化器内科
<input type="checkbox"/>	消化器内科(化学療法)
<input type="checkbox"/>	血液内科
<input type="checkbox"/>	循環器内科
<input type="checkbox"/>	腎臓内科
<input type="checkbox"/>	総合診療科
<input type="checkbox"/>	精神神経科
<input type="checkbox"/>	一般消化器・小児外科
<input type="checkbox"/>	乳腺・内分泌外科
<input type="checkbox"/>	呼吸器外科
<input type="checkbox"/>	心臓血管外科・小児心臓血管外科
<input type="checkbox"/>	脳神経外科・脳血管内治療科
<input type="checkbox"/>	整形外科
<input checked="" type="checkbox"/>	小児科
<input type="checkbox"/>	新生児科
<input type="checkbox"/>	産科・産科・産科
<input type="checkbox"/>	産科・産科
<input type="checkbox"/>	眼科
<input type="checkbox"/>	耳鼻咽喉科・顔面外科
<input type="checkbox"/>	皮膚科
<input type="checkbox"/>	腎臓泌尿器科
<input type="checkbox"/>	放射線診断科・放射線治療科
<input type="checkbox"/>	放射線科・オープン検査
<input type="checkbox"/>	麻酔科・ペインクリニック
<input type="checkbox"/>	形成外科
<input type="checkbox"/>	歯科口腔外科
<input type="checkbox"/>	リハビリテーション科

## アレルギーセンター受診希望の方へ

かかりつけ医からの予約制です。

患者様から、かかりつけ医に「アレルギーセンター受診希望」とお伝えください。

## 受診の流れ

かかりつけ医からの紹介

FAX紹介申込書の希望医師の欄に「アレルギーセンター」と記載のうえ、5科の中で主となる症状の診療科にお申込みください  
詳細につきましては、「アレルギーセンターお申込み方法案内」をご参照ください

医療連携室へFAX申込みを行い予約取得

対応する各診療科を受診(初診)

センター内の複数診療科で情報共有

各診療科での継続診療(再診)

アレルギーセンター総合診を受診(再診)※

# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 診療担当表

初診は、主たる症状に対応する各診療科のアレルギーを専門とする医師の外来へ受診いただきます。①重症のアレルギー疾患 ②多臓器にわたるアレルギー疾患 ③患者本人の受診希望を満たし、初診医がアレルギーセンター内で包括的な精査および加療が必要と判断した場合は「アレルギーセンター総合診」で対応を行います。総合診は水曜日午後に複数の診療科での対応が行える体制としております。

## 外来担当表

診療科名	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科			寺田 哲也 菊岡 祐介 (午前)		
皮膚科					福永 淳 金田 一真 (午前)
呼吸器内科・ 呼吸器腫瘍内科				池田 宗一郎 (第3午後)	中村 敬彦 (第1午後)
小児科		大関 ゆか			
眼科	田尻 健介 (午前)		田尻 健介 (午前)		
アレルギー センター総合診			◎ (午後) ※初診不可		

診療科名	アレルギーセンター総合診 (水曜日午後) 担当医
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	寺田 哲也、菊岡 祐介
皮膚科	福永 淳、金田 一真
呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科	中村 敬彦
小児科	大関 ゆか (※火曜日)
眼科	田尻 健介、向井 規子
歯科口腔外科	藤原久美子

# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 研究助成 獲得状況

## 2022年度

田辺三菱製薬

¥200,000-

「医薬品アレルギー情報の共有システム構築のためのアンメットニーズに関する調査」

申請者：大関 ゆか(小児科)

医薬品アレルギーへの対応・対策として、「患者の薬剤アレルギー情報を把握し共有できるシステムの構築」が重要とされている。情報を一元化して医療機関同士で共有できるようになれば、薬剤アレルギーを有する患者への薬剤投与防止し、診察時に薬剤アレルギー情報の再聴取が不要となり医療従事者の業務過多の軽減をはかり、さらに医薬品を安全に使用できるようになるといった多数のメリットがある。医薬品アレルギーの情報共有システムの構築を目指し、現状で医療従事者、患者、薬局における医薬品アレルギーに関するアンメットニーズを調査する。

第一三共 奨学寄付プログラム

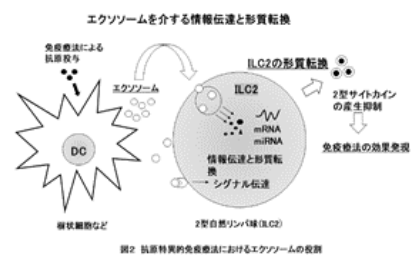
¥500,000-

「エクソソームを用いたスギ花粉症に対する免疫療法の可能性」

申請者：寺田 哲也(耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

これまで、私たちは制御性T細胞やインターロイキン10 (IL-10) を効率よく産生するTr1細胞の誘導がスギ花粉症に対する抗原特異的免疫療法の効果発現に重要であることを明らかにした。しかし、その抗原特異的免疫療法の治療効果は充分とは言えず、また効果予測のバイオマーカーも明確ではない。

本研究では、細胞間情報伝達機構に深く関わっているエクソソームが、自然リンパ球2型 (ILC2) を介する2型サイトカインの産生を抑制することを明らかにし、エクソソームにより、免疫療法の治療効果を上昇させることで臨床応用への展開を目指している。具体的には免疫療法の効果良好な患者の血液中、唾液中エクソソームを採取、精製し、ILC2から産生される2型サイトカインに及ぼすエクソソームの影響を検討する。また、エクソソーム由来の形質転換因子 (mRNA, miRNA) の免疫抑制効果に及ぼす影響を明らかにできれば、治療効果の上昇や、治療期間の短縮が期待できる。



## 2023年度

大塚製薬

¥200,000-

「食物アレルギーの経口免疫療法 (OIT) における心身症医学的アプローチの検討」

申請者：大関 ゆか(小児科)

OITの継続の可否については、アレルギー食品の摂取に関して、患児および保護者が感じる時間的、身体的、心理的負担が関与すると思われる。OIT中の患児および保護者の心理的負担を追求し、心身医学的にどのようなアプローチを行えばOITを継続することができるのか、あるいは効果的にOITを進めていけるのかを検討する。

# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 研究助成 獲得状況

大鵬製薬

¥200,000-

「刺激誘発型蕁麻疹の診断のための運動負荷試験検査方法の確立」

申請者：福永 淳(皮膚科)

コリン性蕁麻疹、食物依存性運動誘発アナフィラキシーなど運動が症状誘発に関わる刺激誘発型蕁麻疹の確定診断のためには運動負荷試験を実施することが国内外のガイドラインなどで推奨されているが、実際の試験の手順や方法に関する検討は少ない。本アレルギーセンターでは倫理審査を通し、刺激誘発型蕁麻疹患者においてトレッドミルによるBruce法に準じた負荷試験を実施し、運動負荷試験の標準化に向けた検討を行う。

協和キリン

¥300,000-

「アトピー性皮膚炎の治療方針の均てん化のための医療従事者への疾患教育アプローチの有効性の検証」

申請者：福永 淳(皮膚科)

アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、食物アレルギー、喘息、アレルギー性鼻炎、好酸球性副鼻腔炎などのType2炎症性疾患を中心に、地域のアレルギー疾患患者をトータルマネジメントすることを目的として大阪医科薬科大学アレルギーセンターは活動を行っている。アレルギーセンターでは地域医療への貢献を第一の目標に医師、看護師、薬剤師、検査技師、栄養士、事務員が密接な協力関係を取りながら、複数のアレルギー疾患を同時に診察できる総合診のシステムを構築し、複数診療科横断的に患者を診察している。アレルギーセンターでは複数のアレルギー疾患を有する患者を総合診でフォローしているが、そのうちの多くの患者がアトピー性皮膚炎を有することが判明している。一方、本邦におけるアトピー性皮膚炎患者に関するアンケート研究においても、患者がアトピー性皮膚炎に関する医療従事者から説明に十分な満足は得られていないこと、治療法に対する満足度が低いことが判明している。

このような背景からアトピー性皮膚炎のマネジメントに関する啓蒙活動の重要性を痛感しており、本研究ではアトピー性皮膚炎治療の均てん化を図るために、アレルギーセンターという特性を生かしセンター活動に関わる医療従事者へのアトピー性皮膚炎という疾患に関する教育活動を行い、その教育的アプローチの方法の有効性、効率性を検討することを目的とし、アンケートなどを用いて教育効果の検証を行う。

## 2024年度

令和6 年度生体医歯工学共同研究拠点共同研究プロジェクト

¥200,000-

「Impression mold (IM)画像の自動解析システム (AAMS; Automatic Assessment for skin Microstructure and Sweating) を用いたアトピー性皮膚炎患者レジストリの発汗機能に関する解析研究」

申請者：福永 淳(皮膚科)

# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター CAI資格取得者報告

アレルギー疾患の治療や管理に関する専門知識を有し、患者さんや家族への指導スキルを兼ね備えたコメディカルスタッフの認定制度である、CAI（アレルギー疾患療養指導士）資格の取得を当センターでは推進しております。2024年時点、計6名が院内で活躍しております。

看護部	氏名
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 外来	山口 睦美
皮膚科 外来	河村 佐和
77病棟（呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科）	生地 知美

栄養部	氏名
	尾籠 賢
	西田 豊美

薬剤部	氏名
	居藤 亜弥

参考：一般社団法人 日本アレルギー疾患療養指導士認定機構

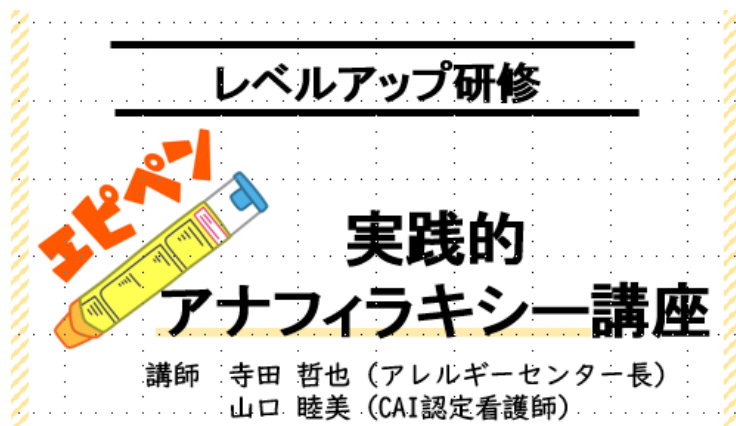


# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター CAI活動報告

本年の CAI 活動に関して

(講習会)

- ・ 2024/3/28 院内保育室・保育士に対しエピペン使用シュミレーション講習  
参加者：院内保育士10名、寺田センター長、深井看護師（小児救急認定）、山口CAI
- ・ 2024/10/11 レベルアップ研修・アナフィラキシー講座  
参加者：副師長・主任13名、寺田センター長、山口CAI



(その他取り組み)

- 患者指導リーフレット作成取り組み
- 患者自己注射指導30件（皮膚科、耳鼻科）
- アレルギー登録に関する委員会でのワーキング活動（問診票見直しについて）
- 2025/3/15 第6回北摂総合アレルギー研究会 開催担当とし打ち合わせ等

# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 研修会 開催報告（2022年）

当センターでは、多臓器/多領域にわたる疾患および重症例のアレルギー疾患に対して、診療科横断的検査および治療を集約し対応しております。また、市民の方・教育関係者および医療従事者を対象とした講習会も充実させております。

## （市民対象）

- 第1回 OMPUアレルギーセンター市民公開講座 2022年8月6日

「聞きたい、知りたい、食物アレルギーについて」

総参加者：約100名（Hybrid開催：大阪医科薬科大学 看護学部講堂、zoom）

## （教育関係者対象）

- エピペン講習会

2022年5月30日（豊中市立第九中学校）担当：大関 ゆか

## （医療従事者対象）

- 大阪医科薬科大学病院アレルギーセンター開設記念講演会 2022年3月5日

総参加者：約60名（大阪医科薬科大学 新講義実習棟P101）

- 第1回 北摂総合アレルギー研究会 2022年11月24日

総参加者：約70名（Hybrid開催：大阪医科薬科大学 新講義実習棟P301、zoom）

# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 研修会 開催報告 (2023年)

## (市民対象)

- 第2回 OMPUアレルギーセンター市民公開講座 2023年8月5日  
「スキンケアのウソと本当」  
総参加者：約120名 (Hybrid開催：大阪医科薬科大学 看護学部講堂、zoom)
- 第2回大阪医科薬科大学薬学部 市民講座  
『アレルギーにやさしい街 たかつき』  
演者：寺田 哲也 (2023年2月1日～2023年2月28日 YouTubeオンライン配信)
- 高槻市市民医学講座 2023年10月5日  
「アレルギーの基本知識とその対策：私たちの健康を守るために」  
演者：寺田 哲也 (高槻市生涯学習センター 2F多目的ホール 主催：高槻市)
- アトピー性皮膚炎オンライン市民公開講座 2023年10月5日  
「アトピー性皮膚炎の発症・悪化の原因と新しい治療選択肢」  
演者：福永 淳 (Web配信 主催：日本イーライリリー株式会社)
- 島本町医学講座 2023年11月7日  
「アレルギーと喘息の本当の関係」  
演者：中村 敬彦 (島本町ふれあいセンター3階 主催：島本町すこやか推進課)

## (教育関係者対象)

### □ エピペン講習会

2023年4月20日 (西大和学園中学校高等学校 (奈良県)) 担当：大関 ゆか  
2023年5月26日 (茨木市教育委員会) 担当：大関 ゆか

## (医療従事者対象)

- 第2回 北摂総合アレルギー研究会 2023年3月11日  
総参加者：約80名 (Hybrid開催：大阪医科薬科大学 新講義実習棟P301、zoom)
- 第3回 北摂総合アレルギー研究会 2023年11月30日  
総参加者：約50名 (Hybrid開催：大阪医科薬科大学 新講義実習棟P301、zoom)
- 第10回 日本アレルギー学会 近畿地方会 2023年11月26日  
(大阪国際会議場)

# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 研修会 開催報告 (2024年)

## (市民対象)

- 第3回 OMPUアレルギーセンター市民公開講座 2024年8月3日

「そうだ、咳の話しよう」

総参加者：約100名 (Hybrid開催：大阪医科薬科大学 新講義実習棟P101、zoom)

- 令和6年度 大阪医科薬科大学市民公開講座 2024年5月18日

「かゆい”皮膚疾患をどう治療する?」

皮膚炎/湿疹・蕁麻疹などのアレルギー性 皮膚疾患の最新情報を含めて”

演者：福永 淳(大阪医科薬科大学 新講義実習棟P101)

## (教育関係者対象)

- 令和6年度茨木市教職員研修 2024年6月17日

「食物アレルギーとアナフィラキシー対応」

～ “かゆい” 皮膚疾患の情報を含めて～

## (医療従事者対象)

- 第4回 北摂総合アレルギー研究会 2024年3月2日

総参加者：約48名 (Hybrid開催：高槻城公園芸術文化劇場 大スタジオ、zoom)

- 第5回 北摂総合アレルギー研究会 2024年11月21日

(Hybrid開催：大阪医科薬科大学 新講義実習棟P301、zoom)

# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 研修会 開催報告（2024年）

## 第3回 大阪医科薬科大学病院アレルギーセンター市民公開講座 開催報告

2024年8月3日14時より第3回OMPUアレルギーセンター市民公開講座をハイブリッドで開催いたしました。高槻祭り、淀川花火大会と夏のイベントが重なる日でありましたが、現地とweb併せて100人の方にご参加いただきました。きびしい暑さにも関わらず、70人以上が現地参加であったこと、事前質問や現地でご参加いただいた方々から多数のご質問をいただいたことから、本講座のテーマである「咳」に対する皆様の関心度の高さがうかがわれました。ご参加いただいた皆様が事前に期待されていた「一瞬で咳を止める方法」や「咳の特効薬」はありませんが、「咳症状」との上手な付き合い方、その基本となる「咳エチケット」を覚えていただき、咳に関わるトラブルが減れば今回の講座の意味は大きかったのではないかと思います。アレルギーとは直接関係が無いように見える「咳」ですが、咳喘息、アトピー咳嗽、アレルギー性鼻炎や副鼻腔炎からの後鼻漏による咳など、アレルギーが関係する咳の原因は複数存在しています。これからもアレルギーセンターの活動を通して一人でも多く咳症状に悩む方々のお力になれるように邁進して参ります。

## 第4回 北摂総合アレルギー研究会 開催報告

2024年3月2日に小児科が担当で高槻城公演芸術文化劇場（旧高槻現代劇場）南館の大スタジオに於いて開催いたしました。南館は新しくできた施設で、とてもきれいな会場でした。今回もハイブリッド開催で、現地28名、web聴講20名のご参加をいただきました。一般演題は、大阪医科薬科大学看護部の水島道代様より「アレルギーを持つこどもの成長発達への支援～自分でできる！の大切さってなぁに？」と題し、エリクソンの発達段階理論に応じた患児への関わりについてご講演いただき、株式会社ファーマシーの中川博之様より「保湿剤とステロイド外用剤の混合について-薬剤師の立場から-」という演題で、外用剤の混合が薬物の安定性や吸収に与える影響についてご講演いただきました。また特別講演は、一般向け書籍やWEB配信でも有名な「ほむほむ先生」こと堀向健太先生（東京慈恵会医科大学小児科）より、「小児アトピー性皮膚炎の最新治療」という題名で、最新の知見だけでなく、ご自身の診療の姿勢も含めて大変わかりやすくお話しいただきました。今回もテーマである「多職種連携」にふさわしい、とても充実した研究会となりました。OMPUアレルギーセンター開設から早くも2年が経ちました。各科、各職種間でのスムーズな連携ができ、包括的な診療体制が整ってきています。引き続き、定期的な研究会にも力を入れていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 研修会 開催報告 (2024年)

大阪医科薬科大学病院  
市民公開講座  
アレルギーについて学ぶ～第3回

## そうだ、 咳の話をしよう

新型コロナ流行期を経て注目されるようになった「咳」のお話

講師：呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科  
医師 中村 敬彦

開会挨拶・司会 呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科 池田 宗一郎  
閉会挨拶 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 寺田 哲也

**2024.8.3(土)** 開場▶13:30～  
開演▶14:00～

大阪医科薬科大学 新講義実習棟 1階  
大阪府高槻市大学町2-7

入場無料  
同時オンライン

最寄駅 阪急京都線「高槻市駅」下車 徒歩3分  
JR東海道本線「高槻駅」下車 徒歩約8分

参加のお申し込みは裏面をご覧ください。お問い合わせ [allergy\\_center@ompu.ac.jp](mailto:allergy_center@ompu.ac.jp)

後援：高槻市・高槻市医師会

### 第4回北摂総合アレルギー研究会

この度「第4回北摂総合アレルギー研究会」を下記要領にて開催させて頂く運びとなりました。ご多忙中のご事情は存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席賜りますようお願い申し上げます。

日時 2024年 3月 2日 (土) 14:40～

形式 ハイブリッド開催 (現地聴講+Web聴講)

会場 高槻城公園芸術文化劇場 南館大スタジオ  
大阪府高槻市野見町 6-8 TEL: 072-671-1061

開会挨拶 大阪医科薬科大学 医学部 小児科学教室 教授 芦田 明 先生

一般講演 14:45～15:25

座長 おおせき医院 副院長/大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 大関 ゆか 先生 (当番世話人)

演者 大阪医科薬科大学病院 小児病棟・小児科外来 副看護部長 水島 道代 看護師

『アレルギーをもつこどもの成長発達への支援へじぶんでできる！の大切さってなあに？』

演者 株式会社アーマシイ 医療連携部 次長/小児アレルギーエドゥケーター 中川 博之 薬剤師

『保湿剤とステロイド外用剤の混合についてー薬剤師の立場からー』

特別講演 15:25～16:25

座長 労働者健康安全機構大阪ろうさい病院 小児科 部長 岡本 奈美 先生 (当番世話人)  
大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター

演者 東京慈恵会医科大学務師医療センター 小児科 助教 堀向 健太 先生


『小児アトピー性皮膚炎の最新治療』

開会挨拶 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター センター長 寺田 哲也 先生

※当研究会は日本アレルギー学会専門医制度認定の研究会です(2単位)

共催：大阪医科薬科大学病院アレルギーセンター/鳥居薬品株式会社

大阪医科薬科大学 アレルギーセンター



### 第5回 北摂総合アレルギー研究会

2024年11月21日 (木) 18:30 ▶ 20:00

会場 大阪医科薬科大学 新講義実習棟「P301」  
大阪府高槻市大学町2-7 TEL 072-683-1221

開会挨拶 大阪医科薬科大学 皮膚科学 教授 森脇 真一 先生

一般講演 18:30 ▶ 19:00

座長 中村 敬彦 先生(大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 副センター長)

『アレルギーセンターの取り組みについて』  
福永 淳 先生 (大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 副センター長)

特別講演 19:00 ▶ 20:00

座長 福永 淳 先生(大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 副センター長)

『連携して臨もう！アレルギー診療最前線』  
千貫 祐子 先生 (島根大学 皮膚科学 准教授)

閉会挨拶 大阪医科薬科大学 アレルギーセンター長 寺田 哲也先生

本会は日本アレルギー学会専門医制度認定の研究会です  
本研究会はハイブリッド開催 (現地聴講+Web聴講) で開催いたします。  
参加申し込みは裏面の詳細をご覧ください

共催：大阪医科薬科大学病院アレルギーセンター 大鵬薬品工業株式会社

# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 研修会 開催予定 (2025年)

## (市民対象)

- 第4回 OMPUアレルギーセンター市民公開講座 2025年8月2日  
アレルギー性鼻炎に関する内容を予定しております
- 東大阪市 難病講演会 2025年1月29日  
「好酸球性副鼻腔炎」 演者：菊岡 祐介

## (教育関係者対象)

- エピペン講習会

## (医療従事者対象)

- 第6回 北摂総合アレルギー研究会 2025年3月15日  
「真の多職種連携とは～誰のために？何のために？」
- 第7回 北摂総合アレルギー研究会 2025年11月予定  
担当；小児科（詳細未定）

# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 研究発表 報告 (2024年)

当センターでは、各診療科での研究発表に加えて、アレルギーセンターとしての研究発表も推進し、各学会や研究会でのアレルギーに関する研究成果報告を行っております。

## 第73回 日本アレルギー学会 近畿地方会 (京都)

- 福永 淳 教育講演 「蕁麻疹の病態解明, 評価方法, 治療の進歩」
- 福永 淳 教育セミナー 「抗ヒスタミン薬で治らない特発性蕁麻疹の対処法」

## 第63回 日本鼻科学会 (東京)

- 寺田哲也 シンポジウム「小児アレルギー性鼻炎診療の手引きから紐解くスギ花粉重症化ゼロ作戦」
- 寺田哲也 セミナー 「小児アレルギー性鼻炎：診断と治療における留意点」

## <国際学会>

- Terada T, Kikuoka Y, et al. : Effects of Intralymphatic Pollen-Specific Immunotherapy on Japanese Cedar Pollinosis. 19th Korea-Japan Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery.
- Atsushi Fukunaga, et al. Chronic spontaneous urticaria in Japan: real-world prevalence, treatments and healthcare resource utilisation based on a health insurance database. European Academy of Allergy & Clinical Immunology. (EAACI) 2024 annual meeting.
- Atsushi Fukunaga, et al. Efficacy and safety of switching to bilastine, a histamine H1 receptor antagonist, in patients with refractory chronic spontaneous urticaria (HI-SWITCH): a phase IV, multicenter, open-label, randomized controlled trial. European Academy of Allergy & Clinical Immunology. (EAACI) 2024 annual meeting.
- Marcus Maurer, Atsushi Fukunaga, et al. Efficacy and Safety of the Oral Bradykinin B2 Receptor Antagonist Deucricitabant Immediate-Release Capsule in Treatment of Hereditary Angioedema Attacks: RAPIDe-3 Phase 3 Trial Design. European Academy of Allergy & Clinical Immunology. (EAACI) 2024 annual meeting.
- Michihiro Hide, Atsushi Fukunaga, Akiko Yagami. A randomized, double-blind, phase 2a study of covalent Bruton's tyrosine kinase inhibitor TAS5315 in patients with chronic spontaneous urticaria with an inadequate response to H1-antihistamines. European Academy of Allergy & Clinical Immunology. (EAACI) 2024 annual meeting.
- Martin Metz, Atsushi Fukunaga, et al. CSU disease activity band shift after long-term treatment with remibrutinib in the Phase 3 REMIX-1 & REMIX-2 studies. EADV 2024.
- Lea Kiefer, Atsushi Fukunaga, et al. Pereiral,2 Current Treatment Practices and Efficacy for Solar Urticaria: Insights from a Patient Survey Study. EADV 2024.
- Michael Palumbo, Atsushi Fukunaga, et al. No Clinically Meaningful Impact of Remibrutinib on Immunoglobulin Levels or Infections in Chronic Spontaneous Urticaria. American College of Allergy, Asthma and Immunology 2024.
- Michihiro Hide, Atsushi Fukunaga, Akiko Yagami. TAS5315 (Bruton's Tyrosine Kinase Inhibitor) Maintained No-hives After Treatment Discontinuation in Chronic Spontaneous Urticaria Patients. American College of Allergy, Asthma and Immunology 2024.

# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 論文業績報告（2024年）

## （邦文）

- 寺田 哲也, 他. 小児アレルギー性鼻炎診療の手引き（日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会誌）※作成委員
- 寺田 哲也. 【実践!花粉症治療マニュアル2024】花粉症治療の実際 局所および全身ステロイド(解説)」。耳鼻咽喉科・頭頸部外科 96巻2号 Page136-142
- 福永 淳. アレルギー用語解説シリーズ Breakthrough attack(ブレイクスルー発作). アレルギー 73巻3号 Page295-296
- 福永 淳. 蕁麻疹の新しい評価方法:UCT7について 臨床皮膚科 増刊号 最新のトピックス2024 78巻5号 Page 71-74
- 福永 淳. 蕁麻疹 今日の診断指針 第9版 Page 1480-1481
- 福永 淳. 【達人が教える!”あと一步”をスッキリ治す皮膚科診療テクニック】スッキリしない蕁麻疹治療の”あと一步”. Derma. 348号 Page44-50
- 福永 淳. 【太陽光線と皮膚】光アレルギー 病態解明と最新の診断・治療ストラテジー. Visual Dermatology 23巻6号 Page525-530
- 福永 淳. 【最近のトピックス2024】新しい検査法と診断法 蕁麻疹の新しい評価方法 UCT7. 臨床皮膚科 78巻5号 Page71-75
- 福永 淳. 治りにくい皮膚疾患・どうする? 疾患編17 コリン性蕁麻疹 メディカルレビュー 2024年 Page 46-47
- 福永 淳. 専門医のためのアレルギー学講座 血管性浮腫の病態と診断・治療 アレルギー 2024年73巻9号 Page 1126-1131
- 福永 淳. 食物依存性運動誘発アナフィラキシー 皮膚疾患最新の治療 2024-2025 2024年 Page 45
- 福永 淳. 【今こそ極める蕁麻疹】難治性の特発性蕁麻疹の治療のコツ. Derma. 347号 Page21-27
- 金田 一真. 【太陽光線と皮膚】(Part2)外因性光線過敏症 ケトプロフェン外用による光接触皮膚炎. Visual Dermatology. 23号 Page541-543

# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 論文業績報告 (2024年)

(英文)

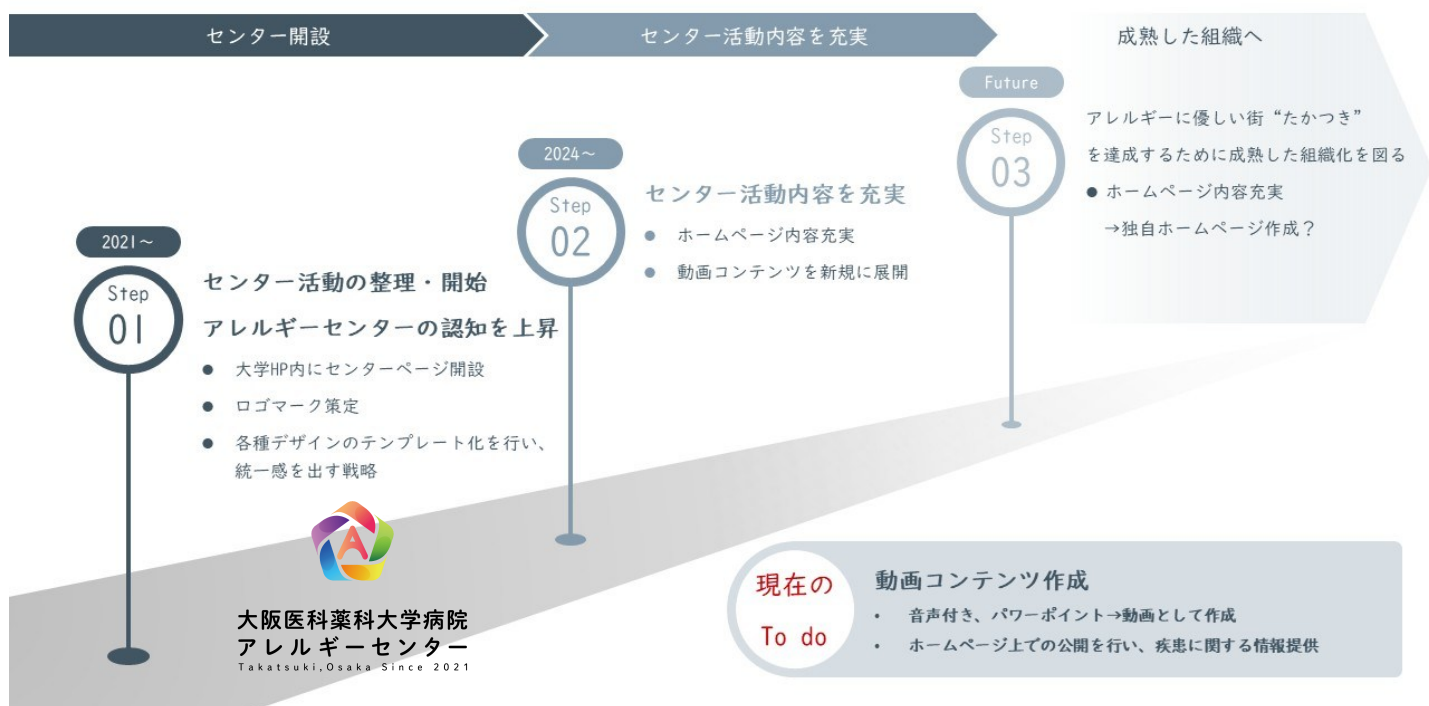
- ❑ Terada T, Kikuoka Y, et al. Effects of Endoscopic Sinus Surgery for Eosinophilic Chronic Rhinosinusitis on Respiratory Functions and FeNO Production in the Lower Respiratory Tract. *Ear Nose Throat J.* 2024 Jan;103(1):49-54.
- ❑ Furukawa Y, Fukunaga A, et al. A Case of Sarcoidal Foreign Body Reaction to Permanent Makeup: the Involvement of M2 Macrophages. *J. Cutan. Immunol. Allergy* 2024.7:13728
- ❑ Fukunaga A, et al. Efficacy and safety of switching to bilastine, an H1-antihistamine, in patients with refractory chronic spontaneous urticaria (H1-SWITCH): a multicenter, open-label, randomized, parallel-group comparative study. *Front Immunol.* 2024 Sep 16;15:1441478.
- ❑ Mizuno M, Fukunaga A, et al. Effect of house dust mite sublingual immunotherapy in patients with adult atopic dermatitis with rhinitis. *Future Sci OA.* 2024 Dec 31;10(1):2419779
- ❑ Fukunaga A, et al. Disease Control and Treatment Satisfaction in Patients with Chronic Spontaneous Urticaria in Japan. *J Clin Med.* 2024 May 17;13(10):2967.
- ❑ Reshef A, Fukunaga A, et al. The Definition, Acronyms, Nomenclature, and Classification of Angioedema: AAAAI, ACAAI, ACARE, and APAACI DANCE Consensus. *J Allergy Clin Immunol.* 2024 Aug;154(2):398-411.e1.
- ❑ Imamura S, Fukunaga A, et al. Solar urticaria: clinical characteristics, treatment effectiveness, long-term prognosis, and QOL status in 29 patients. *Front Med (Lausanne).* 2024 Feb 16;11:1328765.
- ❑ Kaneko S, Fukunaga A, et al. Disease perception in patients with atopic dermatitis and chronic spontaneous urticaria: a cross-sectional survey in Japan. *J. Cutan. Immunol. Allergy* 2024.7:12476.
- ❑ Hioki C, Fukunaga A, et al. Effect of lanadelumab on attack frequency and QoL in Japanese patients with hereditary angioedema: Report of five cases. *J Dermatol.* 2024 Jun;51:873-877.
- ❑ Hioki C, Fukunaga A, et al. Effect of lanadelumab on attack frequency and QoL in Japanese patients with hereditary angioedema: Report of five cases. *J Dermatol.* 2024 Jun;51(6):873-877.
- ❑ Fukunaga A, et al. Efficacy and safety of switching to bilastine, an H1-antihistamine, in patients with refractory chronic spontaneous urticaria (H1-SWITCH): a multicenter, open-label, randomized, parallel-group comparative study. *Front Immunol.* 2024 Sep 16;15:1441478.
- ❑ Takahashi H, Fukunaga A, et al. Long term safety and efficacy of ligelizumab in the treatment of Japanese patients with chronic spontaneous urticaria. *Allergol Int.* 2024 Sep 25;S1323-8930(24)00107-2
- ❑ Fukunaga A, et al. Disease Control and Treatment Satisfaction in Patients with Chronic Spontaneous Urticaria in Japan. *J Clin Med.* 2024 May 17;13(10):2967.
- ❑ Mikajiri R, Fukunaga A, et al. Dietary Intervention for Control of Clinical Symptom in Patients with Systemic Metal Allergy: A Single Center Randomized Controlled Clinical Study. *Kobe J Med Sci.* 2024 Jan 31;69(4):E129-E143.

# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター アレルギーセンター認知度上昇戦略

2021年にアレルギーセンターが設立され、様々な活動を開始してまいりました。

アレルギーセンターをより多くの方に知っていただき、必要とする方々に診断・治療や情報などを届けることが重要と考えております。認知度上昇を目的として、ロゴマークの策定およびホームページ内容充実から開始し、戦略的に前に進めていくように、取り組んでおります。

## アレルギーセンター認知度上昇戦略



<2025年の予定>

- ホームページ内容更新
- 動画コンテンツを公開し、適切な医療情報の提供

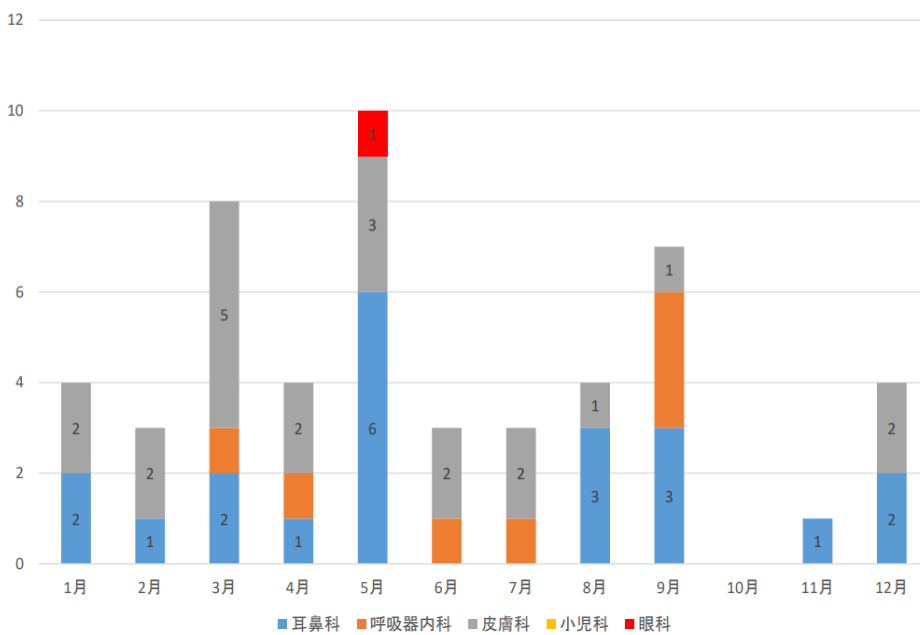
<今後の目標>

- 現在のアレルギー疾患医療連携協力病院から、拠点病院への昇格を目指す

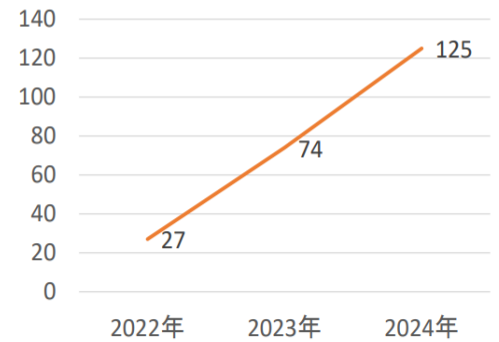
# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 臨床指標（2024年）

アレルギーセンター設立以降、多くの医療機関より患者さんをご紹介いただきました。アレルギーセンター宛の初診患者は、2024年で51名（設立以降の総数 125名）で、着実に年を経るごとに増加傾向にあります。複数診療科で診療を行うアレルギー総合診患者数も着実に増加しております。

2024年アレルギーセンター初診患者

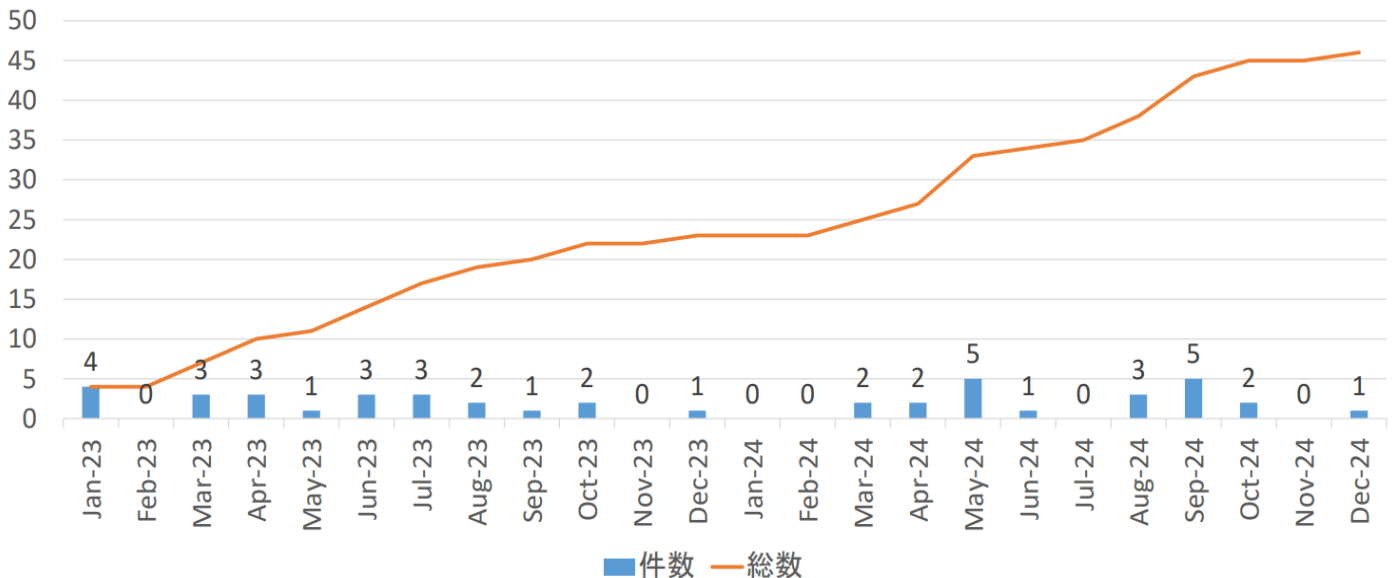


初診患者総数 2024/10月末現在			
	2022年	2023年	2024年
(人)	27	47	51
積算	27	74	125



## 総合診 患者数

46



# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 書籍案内

jmedmook89 日本医事新報社

あなたも名医！ひとりでできるアレルギー診療 Total allergist的診療の手引き

定価：3,850円（本体3,500円＋税）

- 第1章 アレルギーを総合的に診るための基礎知識
- 第2章 ジェネラリストが知っておくべき各疾患の診断と治療
- 第3章 小児アレルギーの特色と問題点
- 第4章 症状から考えるアレルギー診療
- 第5章 様々な視点に基づく患者啓発
- 第6章 ジェネラリストに紐解くガイドラインの読み方

アレルギーを必ずしも専門としないプライマリ・ケア医が、Total allergist的診療を行うための手引きとして、本書は企画されました。アレルギー疾患は、複数の臓器にわたり病変を併せ持つことが多く、また患者の年齢層も幅広いため、複数の診療科がそれぞれの分野における診断と治療を行い、やや縦割りの医療を提供していたとも言えます。全身のアレルギー疾患を総合的に診断・治療できる医師はTotal allergistと呼ばれ、アレルギー診療を行う医師の理想形のひとつだと思います。本書の目的であるTotal allergist的診療とは、アレルギーを発現している臓器を含めた全身のアレルギー疾患を俯瞰し、適切な検査とその後の適切な専門医への紹介ができるアレルギー領域のプライマリ・ケア的診療と考えられ、このような診療が結果としてTotal allergistの育成につながっていると思っています。本書では医師のみならず、薬剤師、看護師、栄養士、検査技師の方にも執筆して頂いており、文字通りの多職種連携の結果、本書が完成いたしました。今回、各専門分野のエキスパートの先生に執筆をお願いしましたが、その専門分野に深入りしすぎず、Total allergist的診療としてプライマリ・ケア医が理解すべき項目にフォーカスして、簡潔に記して頂きました。多忙な診療の中、幾多の加筆修正のお願いにも応えて下さり、執筆にお時間をとって頂いた各先生方にこの場を借りて御礼申し上げたいと思います。本書を通読して頂くことで、アレルギー疾患全体の理解が進むものと思います。また日常診療で困ったときに、該当項目を紐解いて頂く手引的利用もよいと思います。しかし本書がアレルギーという広大な分野のすべてを網羅しているとは言えません。さらに理解を深めるためには、それぞれの分野の専門書を読み、いっそう知識を深めて頂きたいと思います。プライマリ・ケア医がアレルギーを総合的に診療するために、本書がお役に立つことができれば幸甚です。





# 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター

Takatsuki, Osaka Since 2021

大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 「Annual Report 2024」

2025年3月31日発行

発行人 寺田 哲也

編集人 菊岡 祐介

編集 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター

発行 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター

大阪府高槻市大学町2-7 Tel : 072-683-1221